

令和6年狛江市教育委員会第8回定例会会議録

日 時 令和6年8月17日(土) 10:00~14:00

場 所 防災センター4階 会議室

出席委員 教育長 柏原 聖子

委 員 齊藤 茂好・熊谷 勝仁・小川 敦子・森 昌子

関係人 教科書選定協議会会長 吉田 知弘(狛江市立狛江第一中学校長)

教科書選定協議会副会長 植村 多岐(狛江市立狛江第二中学校長)

事務局(議案説明者)

教育部長 波瀬 公一

教育部理事(兼)指導室長 松岡 弘悟

調整担当理事 上田 智弘

学校教育課長 浅井 信治

統括指導主事 柳田 裕司

欠席者 な し

傍聴者 27人

1 審議事項

(1) 議案第43号

令和7年度狛江市立学校使用教科書の採択について

(2) 議案第44号

令和7年度狛江市立学校使用特別支援学級用図書の採択について

2 報告事項

—議会報告—

な し

—行政報告—

な し

—事務報告—

(1) 令和7年度使用教科書の採択について(答申)

教育長 ただいまから、令和6年狛江市教育委員会第8回定例会を開会します。はじめに本日の傍聴人の取扱いについて、お諮りします。傍聴人の取扱いにつきましては、狛江市教育委員会傍聴規則第3条により、定員が20名と規定されています。しかしながら、本日は多くの傍聴希望の方が見込まれています。

そのため、同規則第3条、ただし書の規定に基づき、定員を超える傍聴につきましても、傍聴スペースが許す限り、許可することとしたいと思いますが、いかがでしょうか。

<異議なしの声>

教育長 それでは、これを許可することとします。次に、傍聴人の皆様をお願いいたします。会議中、みだりに傍聴席を離れること、私語、拍手等を行うこと、議事に批評を加え、又は賛否を表明すること、写真等の撮影又は録音をすること、その他議場の秩序を乱し、又は会議の妨害となるような挙動を行うことは、狛江市教育委員会傍聴規則により、禁止事項となっております。本規則に違反した場合には、退場を命ずることとなりますので違反行為のないようお願いいたします。

 続きまして、会議録の署名委員の指名を行います。会議録の署名委員は、「狛江市教育委員会会議規則第29条」の規定により「小川委員」を指名します。

 本日の事務報告は、付議案件に密接に関係することから、審議の前に、事務報告から受けることとしたいと思いますが、これに御異議ありますでしょうか。

<異議なしの声>

教育長 それでは、審議事項の前に、事務報告を受けます。事務報告（1）「令和7年度使用教科書の採択について（答申）」、について報告を求めます。

指導室長 令和6年5月16日開催の令和6年狛江市教育委員会第5回定例会において、「狛江市立小学校及び中学校教科書採択に関する規則」及び「狛江市立小学校及び中学校教科書採択に関する実施要綱」の規定に基づき、教育委員会が教科書選定協議会に対し、教科書採択に関する必要事項の調査の諮問について、審議いただきました。この結果を受け5月30日付けで、教科書選定協議会へ諮問いたしました。8月7日付けで教科書選定協議会から教育委員会に資料のとおり答申がありましたので報告いたします。

教育長 ただいま事務報告（1）の説明が終わりました。委員の皆様には、教科書選定協議会の答申は事前にお配りし、熟読されていることと思います。この件に関して質疑・御意見があれば伺います。

 なければ、次に、付議案件（1）議案第43号「令和7年度狛江市立学校使用教科書の採択について」、審議いたします。本件は、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律及び地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、令和7年度から使用する狛江市立学校の教科用図書の採択を行うものです。詳細は、指導室長から説明いたします。なお、本日の審議に当たっては、「狛江市教育委員会会議規則第14条」の規定に基づき、中学校の教科用図書の選定に当たっては、教科書選定協議会会長の「狛江市立狛江第一中学校 吉田校長」、同協議会副会長の「狛江市立狛江第二中学校 植村校長」に、それぞれ出席いただいています。内容等について質問があれば、お聞きいただければと思います。それでは、補足説明をお願いします。

指導室長 教科書の採択は、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律の規定により、文部科学大臣の検定を経て、教科書目録に登載された教科書のうちから採択することとなっております。

 今回、中学校用教科書においては全教科の教科書について、新たに採択を行います。今回の教科書採択に当たり、教科書選定協議会は、「狛江市立学校使用教科書調査研究資料」、「狛江市立学校使用教科書校内調査研究資料」、「市民アンケート」により検討

を行い、事務報告（１）の「狛江市立学校使用教科書選定資料」を作成しております。この「狛江市立学校使用教科書選定資料」は、「内容の選択」、「構成・分量」、「表記・表現」、「使用上の便宜・その他」の４つの観点进行、それぞれの観点について、各教科書の特徴が明らかにされています。

教育長 それでは、中学校の教科用図書の採択の協議を行います。事務報告（１）の別紙を参照しながら、議事を進めます。

 まずは、国語です。国語の目標は、「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することを目指す。」です。各委員から順次御意見をいただきます。

小川委員 光村図書と三省堂の２社を推薦します。光村図書については、１年生の学習内容から、とてもレベルが高いと感じました。文章や内容解釈のためのナビゲーションが多彩で、先生方が指導しやすいような工夫もされています。また、大きさの異なる差し込みページで、最適な表現を見つけるための語彙ブックがついています。学年ごとに「情景を表す言葉」、「感覚を捉える言葉」、「心の動きを表す言葉」の事例があり、言葉の世界を広げる教材として面白いと感じました。そして、日常生活では馴染みのない古文や漢詩の単元は、地図やイラストを用いて昔の情景を思い浮かべやすく、丁寧に学習できる内容になっています。

 三省堂については、「私の読書体験」のページで、若者に人気のミュージシャンや作家が自分のお気に入りの本を紹介しています。興味関心のある人から紹介された本は、インターネットの口コミ効果のように読みたくなると思います。

森委員 言葉の持つ意味や価値、また言語文化に関わり、国語を尊重して理解する能力を育て、狛江の子どもたちが主体的に学習に取り組めるような教科書という観点から検討しました。推薦したいのは光村図書です。最初の「学びの扉」で流れとポイントを明確に示していること、教材も書き下ろしの作品、また３年生では、万葉集に多摩川という身近な環境を題材とした作品があるのも、中学生は興味や関心を持ちやすいと思いました。そして、語彙ブックも、とてもよくできていると思いました。子どもたちに身につけさせたい表現力や判断力、また思考力や想像力も大切ですが、思っていることを言葉に表現できないときの助けになるような語彙ブックは学習の幅が広がり、最適な表現を探すことができる思考力の幅も広がるのではないかと考えました。学習内容と学習方法の両面を重視して学習に取り組むことができ、自分自身で学びを深めていくという点から、光村図書が最適ではないかと思ひます。

 もう１社は東京書籍です。国語の言葉の力で未来を開くとあるように、言葉をとても丁寧に扱っていると感じました。様々な教材に取り組んでおり、漫画やイラストも効果的に使われていて親しみやすいと思いました。２年生の教科書にリンクマップがあり、左と右でメリットとデメリットを書き出して話し合いを深めて、互いの立場を尊重しながら思考力を高め、学びを深めていける工夫があるのもすばらしいと感じました。また、１年生では字が大きめで、２年生になると字が少し小さくなっていくというのが、発達段階に関する配慮ができていると感じました。

熊谷委員 説明的文章と文学的文章がそれぞれどのように扱われているかという観点から検討しました。まず推薦したいのは光村図書です。最初の「主体的に学ぶ」という部分

において、学習の流れが整理されていて、年間を通じてどのような学習を行うか全体が見通せるようになってきている点が良いと思いました。また、万葉集に多摩川が題材として扱われており、狛江に非常になじみのある中身だと思います。

2つ目として教育出版を推薦します。構成と分量を他社と比較してみたところ、学習活動の流れや言語自体はきちんと明示されていて、扱いやすいと思いました。それから「蜘蛛の糸」、「オツベルと象」といった非常になじみのある題材を扱っている点も良いと思いました。

斉藤委員 中学校の教科書は非常にボリュームのあるものになります。教科ごとに先生方が替わり、教科の専門性が学年ごとに上がっていく中で、子どもたちのその教科に対する興味関心を萎えさせないことが特に大事だと思います。この観点から、万葉集の中に多摩川を直接教材に挙げている光村図書と東京書籍が、多摩川を身近に感じている狛江の子どもたちをつかむという意味ではより望ましいのではないと思います。また、光村図書は興味関心の面においてある程度一貫して配慮がなされており、東京書籍は子どもたちにとって苦手意識のある文法についてわかりやすくかつ漏れなく中学2年生の段階で提示しています。この2社を推薦します。

教育長 まず、中学生義務教育段階において、語彙力と情報の扱い方の指導を充実させる必要があると思います。その上に、本市の生徒たちの書く力を伸ばす、そしてバランスよく表現する力を身につけるという点から、2つの教科書を選びました。1つ目が光村図書、2つ目が三省堂です。光村図書については、文学的文章と説明的文章ともに書き下ろしがあり、中学生の興味関心を引くような内容と見通しを持てる構成になっています。三省堂については、苦手な生徒も興味を持てるような構成になっています。では、ここで1社に絞っていきたいと思います。

小川委員 光村図書がよりふさわしいと思います。

森委員 私も光村図書がふさわしいと思います。

熊谷委員 光村図書を選びたいと思います。

斉藤委員 全体的なバランスを考えて光村図書が良いと思います。

教育長 皆様の御意見は光村図書です。理由としては、語彙ブック、多摩川が題材にされていること、そして見通しを持った学習構成になっていることです。光村図書を採択することについて賛成の方の挙手を求めます。

<賛成者：挙手>

教育長 挙手全員と認めます。それでは、光村図書を採択することといたします。次は書写です。皆様から順次御意見をいただきます。

森委員 どの教科書も二次元コードがついていて、丁寧に書き方が示されていると思いました。今まで書道の筆遣いは先生のお手本や教科書の見本を見て書いていましたが、光

村図書は動画で筆遣いを確認し、ポイントが赤で示されているのがよりわかりやすいと思いました。デジタルコンテンツが非常に充実していて、ICTを活用して学習に取り組めるように思います。また、書写ブックと行書スイッチがあり、手書きと行書の良さを理解して学べるように構成されているところも良かったです。そして、書き初めのマスターシートは半紙の原寸大のお手本があり、これを見ながら書くことができるのも活用しやすいと思いました。手紙や年賀状の書き方など、実生活に生かされるような工夫もよくされています。以上の理由から光村図書を推薦したいと思えます。

熊谷委員 第1に光村図書を推薦したいと思えます。光村図書は楷書と行書を含め、段階的な内容構成となっていて、見通しを持って筆遣いを書き込めるのではないかと思います。それから二次元コードで書き方の画数や他の教材を手軽に確認できるようになっているのではないかと思います。

教育出版は画像資料が非常に多く、書の歴史や活字の変遷をわかりやすく扱っている点、それから古典の書き取りやレポート、ポスターなども扱っていて、書き込めるようになっている点が良いと思えます。光村図書と教育出版の2社を推薦したいと思えます。

斉藤委員 子どもたちは1人1台タブレットが手元にあります。書写の時間に、同時にタブレットを見ながら字を書くのは机の関係上難しいのかもしれませんが、事前段階で、二次元コードから筆の運び、全体のバランスなどを考えて練習できるのはすばらしいと思えます。その中で、まず、手書きで字を書くことを非常に丁寧に扱っている光村図書が良いと思えます。

また、文字は意味を表しているものであるため、東京書籍は文字の歴史的な経緯等の成り立ちについても触れている面と、日常生活で筆で書くというシーンが封筒の宛名書き等様々な実用的な場面で使われるという手本を示している面では、良いと考えました。

小川委員 光村図書を推薦いたします。まず、別冊の書写ブックがあり、毛筆以外にも硬筆の練習がたくさんできる点が良いと思えます。日常生活では毛筆より硬筆を使う方が多いため、硬筆の文字をきちんと書ける大人になってほしいと思えます。また、漫画やイラスト写真を用いて、手書きの良さや様々な文字の書体を紹介していて、親しみやすいです。ユニバーサル・デザイン・フォントも紹介されており、時代に合わせた内容になっています。それから、文字を書くときの正しい姿勢を学習する単元では、タブレットを使うときの姿勢との比較がされており、日常的にタブレットを使う中学生には、正しい姿勢をより理解しやすいと思えます。日常生活で実践できる学習単元では、はがきや送り状の書き方、3年生では入学願書と志望理由書の書き方なども学習できます。書写の学習が自分にとって必要な学習内容であることを実感できる工夫がされています。

教育長 デジタルコンテンツ、社会生活とつながっている文字であるということ、そして、文字の意味ということが理解できる教材であってほしいという願いから、教育出版と光村図書を選びました。教育出版は行書の基本的な書き方を理解して身近な文字を行書で書くこと、そして調和した仮名の書き方を理解して読みやすく早く書くことに注

力した内容となっています。また、入学願書など目的や必要に応じた書き方も例示されています。

光村図書は、生活に密着している入学願書、目的や必要に応じた字の書き方、壁新聞、そして歴史などをまとめるときにどのような作成の仕方があるかという構成についても紹介されていて、他教科に広げていけるような例示がされています。また、俳句や短歌を読みやすく書くところや、情報収集の達人というノートも含め、光村図書がふさわしいと思いました。では、ここで1社に絞っていただきます。

森委員 光村図書を推薦したいと思います。

熊谷委員 私も光村図書を推薦したいと思います。

斉藤委員 光村図書を推薦します。

小川委員 私も光村図書を推薦いたします。

教育長 皆様の御意見は光村図書です。デジタルコンテンツ、書写ブック、別冊による硬筆についてもふだん使う字形が例示されていること、練習もできるような構成になっていること、そして、意味理解といった観点から、光村図書を採択することについて、賛成の方の挙手を求めます。

<賛成者：挙手>

教育長 挙手全員と認めます。それでは、光村図書を採択することとします。

次は社会科地理分野です。地理分野の目標は、「社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり、解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを目指す。」です。皆様から順次御意見をいただきます。

熊谷委員 地理的な見方・考え方が大事だと思いますので、その辺りを中心に精査しました。帝国書院は見方・考え方、課題解決学習を一番取り入れて、生徒の興味や関心を高める導入部分、見通す部分、知識を深める部分が工夫されていて、扱いやすいと思いました。帝国書院を推薦したいと思います。

斉藤委員 教科書づくりの実績や自信がゆとりに現れるぐらい堂々としていると感じたのが帝国書院です。往々にして、専門性が強すぎると対象となる生徒への具体的な指導という面で、逆に難しいのではないかという見方もありますが、その辺りも十分配慮された上で、帝国書院の教科書が他社より一枚上手だと考えています。

小川委員 帝国書院と東京書籍を推薦いたします。来年度以降入学する生徒たちは、震災後に生まれているという視点から、地理分野では防災や災害に関する学習をしっかりとできることを重視して選定しました。

帝国書院については、きれいな写真や図表データがとても豊富で、各地域がいきいきと魅力的に紹介されています。章ごとに色分けがされていて、節ごとに学習の振り返りができるように工夫されています。「学習の課題」、「確認しよう」、「説明しよう」というフラグが立っていて、学習の流れが明確になっています。「地図帳活用」のフラグもあり、確実に地図帳で確認してほしい学習内容が強調されています。地域調査の仕方の単元では、見やすい地図を用いて丁寧に説明しています。日本全体における自然災害に対する取組と、九州から北海道までの各地域での特徴的な防災の取組と、二段階でより深く防災を学ぶことができます。節ごとの学習の振り返りでは、得た知識を再確認するだけでなく、地図帳を活用して世界の様々な地域や日本の地域ごとの特色をまとめることによって、思考力・判断力・表現力を身につける工夫がされています。また、未来の新しい産業や地域おこしの取組が紹介されていて、将来の職業を考える一助になります。

東京書籍については、章ごとに色分けがされていて、節ごとに学習の振り返りもできるようになっていきます。また学習課題をはじめに提示して、まとめのページでは探求課題が提示され、「みんなでチャレンジ」では、グループでの話し合い活動や、個人でまとめることによって、思考力・判断力・表現力を身につける工夫がされています。防災に関しては、日本全体における自然災害に対する取組を学べるようになっていきます。東日本大震災については、東北地方を学ぶ単元で、長引く原発事故の影響についてコラムで触れていて、現状の課題ときちんと向き合えていて良いと思います。防災に関する内容は帝国書院に比べると多くはないですが、学んでおきたい内容はきちんと盛り込まれていると感じました。

森委員

帝国書院を推薦します。年間を通した学習の見通し、目に映る全てのものが題材となる地理的な見方・考え方、また地図帳を活用した学び方ができるように工夫されているのが、帝国書院だと思います。地理に限らず、現代社会の取組や世界と日本の関連に重点を置き、日本の課題、地域から世界を見た課題というのがわかりやすく説明されています。また紙面もデジタル画面でもとても見やすい教科書です。資料に通し番号がしてあり、資料と本文の関係を理解しやすいのもポイントだと思います。子どもたちにとっての見やすさの観点からも、帝国書院は統計資料などもとても見やすくわかりやすかったと思います。

もう1社は東京書籍です。写真や地図、イラスト、グラフ表などの資料が見開きに配置されていて、とても見やすくレイアウトされています。「みんなでチャレンジ」というところが、対話的な学びが効果的に実践できるように感じました。

教育長

地理の教科書について、生徒が問いを立てられるような立て付けになっているかどうか、そして、狛江市はゼロカーボンシティの宣言をしているという2点に注目しました。1つ目は、帝国書院です。帝国書院は問いを軸とした単元構成の構造化、主体的対話的な学びと指導・評価の一体化が実現できるような工夫がされています。ゼロカーボンシティに関しては、脱炭素に関する取扱い、再生可能エネルギー、ヨーロッパや国内の取組が記載されています。

もう1つは、日本文教出版です。こちらも生徒自ら問いを立てることができるようになっていきます。ゼロカーボンシティを宣言するところまでの取扱いがされていて、ブラジル等海外の取組についても取り上げています。

それでは1社に絞っていただき、お伺いいたします。

熊谷委員 見方・考え方の扱いが良い帝国書院を推薦します。

斉藤委員 遜色なく記載されている帝国書院を推薦します。

小川委員 帝国書院を推薦します。

森委員 帝国書院を推薦します。

教育長 皆様の意見から、思考力・判断力の育成、震災後に生まれた子どもたちに災害・防災を伝えていくような役割、そして、狛江独自の特色ある題材が挙げられていること、学びの見通しが立っていることといった観点から、帝国書院を採択することについて、賛成の方の挙手を求めます。

<賛成者：挙手>

教育長 挙手全員と認めます。それでは、帝国書院を採択することとします。

次は、社会科歴史的分野です。歴史的分野の目標は、「社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ課題を追求したり、解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる、平和的で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを目指す」です。それでは、皆様から順番に御意見をいただきます。

斉藤委員 各社とも我が国の領土に関して取り扱っている点は評価できると思います。東京書籍は教科書の冒頭に課題学習の説明について非常に丁寧に挙げられている点が評価できると思います。続いて、狛江の水害の歴史も勘案した中で、帝国書院は、自然災害と防災について、歴史上の洪水、若しくは治水についての記載が明示されているという点では評価できると思います。東京書籍と帝国書院が望ましいと考えました。

小川委員 帝国書院、山川出版と日本文教出版を推薦いたします。

帝国書院については、図やデータが豊富で、地図帳も連動して活用できるようになっています。各ページに「学習課題」、「確認しよう」、「説明しよう」というフラグを立て、学習の流れを明確にしています。また各章の最後に年表形式の学習のまとめがあり、他の人との話し合いを考察することで、思考力・判断力・表現力が身につけられるように工夫がされています。

山川出版については、全体的に紙面がシンプルです。他の多くの教科書は全ページにどの時代の学習なのかがわかる時代年表の軸がありますが、山川出版にはなく、各章、各節のタイトルがシンプルで理解しやすいです。表や図は大きくて見やすいですが、文字が少し小さく、説明文が「です・ます調」ではない点が少し気になりました。表紙は有名な装丁家のデザインで、シンプルで洗練されています。学習内容は少し多いと感じますが、高校の歴史総合の学習につながりやすいと思います。各章の最後に記述式のまとめのページがあり、学習の振り返りがしやすくなっています。

日本文教出版については、表や図が多く、文章が苦手な人にも学習内容が入りやすい工夫がされています。單元ごとに学習課題、確認、説明、見方・考え方が示されていて、学習内容のポイントがわかりやすいと感じました。

森委員 今を生きている私たちにとって歴史に学ぶことはとても大切だと思います。生徒の興味や関心を喚起し、そこからより深い学びへと進めるという観点から教科書を検討しました。私が推薦したいのは東京書籍です。課題解決型の学習をスムーズに進めるような構成「みんなのチャレンジ」というのがあり、対話的で活動的な学びを進める構成になっていて、とてもわかりやすいと思いました。また、各章の最初に絵巻物などの資料が視覚的に見てとれるようになっていて、今から進めていく学習内容への関心を高められるような工夫がされていると感じました。はじめの導入の部分で、年表と世界の様子が同時にわかるという工夫が感じられます。そして、導入部分の写真もとても大きく、生徒自身がいろいろなことを考えやすく、それを基にしたコラムも非常に多く掲載されています。

もう1つは教育出版です。タイトルの下に歴史のインデックスがあり、その下に学習課題が提示されていて、子どもたちの興味を持たせるという点では非常に良いと感じました。また歴史を学ぶ上で、人物の生き方にも視点を当てているところもわかりやすかったです。歴史はどうしても暗記科目のようなイメージがありますが、「読みとこう」という問いが設定されていて、時代や文化、出来事などを暗記するだけでなく、その時代と比較して今の時代はどうかという主体的な学びを大切にしている点がとても良いと感じました。

熊谷委員 主体的な学びが特に歴史的分野において大事だと思いますので、この観点を中心に考えてみました。主体的な学びにつながるためには導入部分はとても重要であり、東京書籍の導入部分は発展的な学習につながるようによく取扱いをされていて、とても良いと思います。また、歴史的分野においても探求学習が大事だと思います。東京書籍は探求学習をするための位置付けについて、構成と分量で非常に上手に扱っていると思いました。

もう1社は日本文教出版です。チャレンジの歴史という扱いで、発展的・探求的な学習を行う部分が非常に良いと思います。

教育長 課題解決型の学習が進められる構成になっているのか、そして歴史から学ぶことができるのか、ということに着眼しました。その結果、1社は帝国書院、もう1社は東京書籍を推薦します。帝国書院は、バリアフリーと法の整備を取り上げていること、脱炭素社会をイギリス産業革命から述べていること、グローバル化と私たちへの影響というところまで発展的に取り上げていることが良いと思います。

東京書籍に関しては、単元の課題、探求課題と1時間ごとの学習課題が記載されており、課題解決型学習を進める構成になっている点から推薦します。

それでは、1社に絞っていただき、御発言をお願いいたします。

斉藤委員 子どもたちにわかりやすい授業への取り組み方、なじみの深いアプローチがなされている東京書籍が良いと思います。

小川委員 私は帝国書院を推薦したいと思います。

森委員 東京書籍を推薦したいと思います。

熊谷委員 東京書籍を推薦したいと思います。

教育長 私は帝国書院を推薦したいと思います。では、お諮りいたします。東京書籍と帝国書院が推薦されている中で、学習の見通しを持つという点に注力されている東京書籍の選定に賛成の方の挙手をお願いいたします。

<賛成者：挙手>

教育長 挙手多数と認めます。それでは、学習課題、探求的な学習を進める構成となっている東京書籍を採択するという点によろしいでしょうか。

<異議なしの声>

教育長 では、東京書籍を採択いたします。

続いて、社会公民的分野です。公民的分野の目標は、「現代社会の見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを目指す。」です。

皆様から順次御意見をいただきます。

小川委員 変動が激しい国際社会で生きていくために必要な知識や情報、考え方を、総合的に身につけられる教科書はどれかという視点で確認しました。帝国書院と東京書籍を推薦いたします。

帝国書院については、ページごとに学習課題を確認・説明する項目があり、学習の流れが明確です。また、具体的な事例を用いて、対話型で思考を広げる問いが設定されています。国際社会の変化の単位では、ロシアのウクライナ侵攻、ポピュリズム、暗号資産等も掲載されています。変化が目まぐるしい国際社会情勢ではありますが、来年度から4年間使用することを想定すると、最新の情勢を掲載している点が良いと思いました。

東京書籍については、持続可能な社会を構築するために、私たちは何ができるかという視点で学べる構成が良いと思いました。国際問題、社会問題で取り扱う課題の選び方も良いと思います。人権問題について、自分たちを取り巻く身近な社会問題として掘り下げて取り扱っている点が良いと感じました。また、各章の最後の学習のまとめでは、知識を確認するだけでなく主体的に学習に取り組み、思考力・判断力・表現力を身につける工夫がされています。

森委員 公民の授業は、自分の生活に関わることなので、自分なりの意見を考えて、友達と話し合う機会を持ちやすい内容は、どの教科書なのかを重視しました。

私が推薦したいのは教育出版です。学習のゴールが、50年後の自分や、地球の持続可能な未来を創造できるようにとあるように、問題解決型の学習が重視されていると感じました。身近な話題も多く取り上げ、個人やグループで資料を活用してまとめる

など体験的な学習ができるように工夫されていました。また、子ども食堂、1円のできる株式会社など、子どもたちが興味や関心を広げていきやすいコラムや、見方・考え方の参考になる内容が多く載っていました。社会的な課題を多面的に捉えて考察できる内容になっていました。

もう1社は東京書籍を推薦します。共生社会を中心に、人権、差別問題、人権保障等に多くのページを割いており、わかりやすく入りやすい内容でした。また、インクルージョンや性の多様性といった人権に関する最新の語句が、太い文字で強調されていました。また、パートナーシップ証明書の写真、インクルーシブ、バリアフリーを漫画やイラストなどを見ながら学ぶことができる導入資料も多く、発展的な学習につながりやすい工夫が多くありました。また、「18歳へのステップ」がとてもよくできていて、18歳からの選挙権や様々な契約の解説などがあり、自分たちが18歳になるときに、どのような意識を持つべきかを学ぶのに良い特設ページだと感じました。成年年齢が18歳に引き下げられましたが、大人に認められている全てが18歳でできるようになったわけではなく、これができるのは18歳、20歳どちらかというQ&Aも非常にわかりやすく解説されていました。

熊谷委員 私はまず教育出版を推薦したいと思います。公民は生徒の日常生活の経験、身近な課題や内容を扱う部分ですので、それが多く扱われているのが教育出版だと思います。2点目は、地球規模の持続可能な社会を作るという部分を強く意識して見ると、教育出版の内容は、実際に話し合いや活動の場面が設けられており良いと思いました。

もう1社は東京書籍を推薦します。東京書籍も疑似体験的な活動が多く取り入れられており、これは非常に大切な部分かと思います。主体的、対話的で深い学習ができる部分が多く示されているので良いと思いました。

斉藤委員 中学生は、地理と歴史を同時並行してきて、中学校に入ってより細かい詳しいことを勉強していきますが、地理と歴史で社会科に興味を持った子が、中学3年生で公民を学習する際に、いわゆる政治と経済、国際社会になり、どうしても学習意欲が下がってしまいます。公民こそが私たちの日常生活、まさに身近な内容であるにも関わらず子どもたちの学習意欲が下がるという面に大変問題があると思います。そのため、私は教科書を選定、検討するに当たって、子どもたちの興味関心を少しでも高めようというコンセプトが入っているものはどこかという視点で教科書を読みました。

その中で、日常生活を含めて身近な内容との関連性を持たせて詳述している教育出版がより望ましいと思いました。東京書籍も各章の入り口のところで、なるべく子どもをつかんでいこうという配慮は見られますが、一貫して、先ほどの課題を何とか解消していこうという配慮が見られる教育出版が良いと思いました。

教育長 公民は、生活と密着していること、多面的・多様な見方ができることが大切です。自分の考えだけではなく、協働的な学びがおのずと必要になってきます。そのため、中学生の経験だけでなく、経験していないことも想像できるような内容に着目し、2社選びました。1社は、東京書籍です。疑似体験ができるようになっており、主体的に取り組める工夫がされています。

もう1社は、教育出版です。現代社会の変化によって生じた課題や、日常生活と関連した内容が取り上げられており、中学生にとっては、身近なところから考えを広げたり、ディスカッションをしたりということが可能な題材が多いと感じましたので、

この2社を推薦します。それでは、最終的に最も適切と判断される1社に絞っていただきます。

小川委員 東京書籍を推薦します。

森委員 社会的な課題を多角的に捉えて考察できるような内容になっているため、教育出版を推薦します。

熊谷委員 物事を多面的に捉える部分は非常に大切かと思しますので、教育出版を推薦します。

斉藤委員 私も教育出版を推薦します。

教育長 私も教育出版を推薦します。皆様の御意見は、人権問題等の課題を取り上げている東京書籍と、公民という教科の特性から、多面的な捉え方ができるような工夫がされている教育出版の2社が出ました。その中で、教育出版を採択することについて賛成の方の挙手を求めます。

〈賛成者：挙手〉

教育長 挙手全員と認めます。よって、教育出版を採択することといたします。次に地図です。皆様から順次御意見をいただきます。

森委員 今は行きたい場所をスマートフォンやインターネットですぐに調べることができる時代です。そうした中で地図を使って学ぶというのは、地図の使い方だけではなく、日本のこと、世界のことを知る時間になるのだろうと思いながら、教科書を見てきました。その中で推薦したいのは、帝国書院です。まず、版がとても大きく、地図を活用して使いこなすのにとても適切だと思いました。特に地図で考える持続可能な社会では、地図上で考えるSDGs、日本の自然災害、防災にページを多く使っているのも、狛江の子どもたちにとっては、学びやすいと思います。防災に関する資料がとても充実しているように感じました。また、現代的な様々な課題についてのページも大変充実していて、課題意識を持つのにふさわしい教科書は、帝国書院かと思います。

熊谷委員 私も帝国書院が良いと思います。SDGsに関する部分や統計、資料集としての部分が充実されていて非常にわかりやすいです。帝国書院は昔からそのような部分を強調されている教科書かと思いますので良いと思います。狛江市は多摩川があるので、自然災害、防災の意識を高めるために、この資料を活用することが非常に大事だと思いますので、帝国書院を推薦します。

斉藤委員 デジタルが進歩して、地図を読めない人が多くなっていると思います。紙面上の地図でどちらが北でどちらが南かという基本すらわからずに、出発地と目的地を設定すれば誘導してもらえるという生活の中で、基本となる自分の位置を地域ごとに俯瞰図を載せているのが帝国書院です。立体的に位置関係を把握できるのは大変良い取組だと思いました。また、多摩川に近いという狛江市の立地条件からも、防災や自然災害への関わり、関係機関の役割がしっかりと書かれている帝国書院が良いと思います。

小川委員 私も帝国書院が良いと思います。東京書籍もかわいいキャラクターを用いて親しみやすい教科書になっていますが、防災に関する学習内容が、帝国書院の方が充実していると感じました。水害への備えを学んでほしい粕江市としては、帝国書院の方が、よりふさわしいと感じました。

教育長 粕江には多摩川と野川がありますので、水害に関しては、子どもたちもかなり意識しているものの、地理条件などを俯瞰的に見ていくことは非常に大事だと思っています。また、SDGsに関連する統計の掲載があり、社会科以外の教科でも活用できるということで、帝国書院を薦めたいと思います。

それでは、皆様の御意見を伺いますと、防災を取り上げていること、多摩川に近い粕江の特性として資料活用ができるということで、全員、帝国書院の推薦です。帝国書院を採択することについて、賛成の方の挙手を求めます。

〈賛成者：挙手〉

教育長 挙手全員と認めます。よって、帝国書院を採択することといたします。

それでは次に、数学です。数学の目標は、「数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。」です。皆様から順次御意見をいただきます。

熊谷委員 数学的な見方・考え方を使うことが何より大事だと思うのですが、今回どの教科書もその取扱いが良いと思います。数研出版の教科書が、基本的な問題を進めてから、それを発展させた問題という取扱いをしており、これは大切にしたい部分かなと思います。見方・考え方を培う場合、やはり基本的な部分が大切だと思いますので、1社目に数研出版を推薦します。

もう1社は東京書籍を推薦します。3年間の積み重ねがはっきりしている点、章の終わりに振り返りのレポートを扱っているので文章をまとめる力をつけるのに良いと思いました。

斉藤委員 身近な例や題材を提示していくことは、子どもたちの興味関心を沸き立たせる上で大事だと思います。数研出版が、振り返りをして既習事項をまず確認する扱いになっており、どんなことを学び、どれだけ身につけているかを子どもたちに確認させた上で、指導に入っていくという面では非常に丁寧な技術だと思います。

同様に、東京書籍も例題を挙げる中で、つまづく子が出ないように、途中の計算式や説明が丁寧に書かれている面で大変評価ができると思います。数研出版と東京書籍を推薦します。

小川委員 東京書籍と数研出版を推薦します。どちらの教科書も、対話型で学びを進めており、数学の教科書として新しい学びの進め方であると感じました。

東京書籍については、各章の導入部分がとても興味深いです。例えば、関数とジェットコースターが進む様子を結びつけていたり、平面図形の見方と日本の伝統模様を結びつけていたり、数学に対して苦手意識を持ち始める中学生にも親しみやすくな

っています。探求学習や補充問題も充実しており、数学をより深く学習したい生徒への配慮がされています。

数研出版については、各章に入る前に既習内容を振り返るページがあります。新しい単元を学習する前に、関連する既習内容を振り返る点が良いです。学習内容を深めるページも充実していて、補充問題として段階的に豊富な問題演習ができる点も良いと感じました。

森委員 数学が苦手という子もいるかもしれませんが、数字の中に意味があり、数学を学ぶことがどれだけ楽しいことかを感じてもらうことが大事だと改めて思いました。

その中で、教科書のテーマがマスコネクト、数学のつながりを探すとされている東京書籍が良いと思いました。身近な生活の中で出てくる疑問から始まり、数量や性質などを見つけ出して問題に取り組む構成になっているので、スムーズに学習できるのではないかと思います。また、基礎的な学力を習得できるように、練習問題やデジタルコンテンツを活用して効果的に配置しているのも良かったです。また、話合いやグループワークの工夫もあり、自分の意見や表現する場面でも、協働的な学習がしやすいと思います。協議をして、課題を解決して、振り返って次につなげる、学んだ知識を活用してまとめるといったポイントが東京書籍の教科書はできていると思います。

もう1社が学校図書です。巻末にプログラミング学習を取り入れていたり、SDGsを意識的に取り入れている点が良かったです。また、ノートの使い方や、授業でどう考えてどのような道筋で問題を解決したかが丁寧に書かれていました。見直してまとめて生かすまでが明記されているところも良かったです。単位の学び方や円・接点の記述の仕方もとても丁寧に書かれていました。アプリで画像を撮ると回転する教科書の表紙も、数学の教科書らしくデザインが素敵で印象的でした。

以上より、東京書籍と学校図書を推薦します。

教育長 基本的な既習事項をしっかりと義務教育段階で身につける教科であること、数学の苦手意識が払拭されない生徒が一定数いることを鑑みたときに、基本を振り返り、積み重ね、発展するという構成になっている3社に絞りました。数研出版、東京書籍、啓林館です。数研出版は、既習事項をしっかりと確認できる構成になっています。

東京書籍は、話合いやグループ学習なども入れ、例題等で丁寧に書かれており、苦手とと思っている生徒でも理解しやすい構成になっています。

啓林館は、生徒が何をすべきなのかが、整理整頓しながら明確に表明されていますので、学びの道筋がわかりやすいと考えました。では、1社に絞っていただきまして、御意見を伺います。

熊谷委員 数学が苦手な生徒が基礎力をつける上で、基礎的な問題を重視し、それを発展させた部分の扱いも大切だと思いますので、数研出版を推薦します。

斉藤委員 例題数の多さと充実度から、数研出版を推薦します。

小川委員 数学に対して苦手意識を持っている生徒が一定数いることを想定すると、既習内容を振り返るページがあり、補充問題として段階的に豊富な問題演習ができる、数研出版を推薦します。

森委員 東京書籍は言葉の定義をわかりやすく説明している箇所が多く、数学が苦手な子にとって学びやすいと感じましたので、東京書籍を推薦します。

教育長 私も数研出版を推薦します。皆様の御意見を伺いますと、基礎・基本の定着、既習事項の確認といった、義務教育のベースの部分をしっかり身につけ、その上で、数学的な見方・考え方を発展的に学習できる一方で、導入部分では数学に興味関心を持つ工夫がされている、数研出版を採択することについて、賛成の方の挙手を求めます。

〈賛成者：挙手〉

教育長 挙手全員と認めます。よって、数研出版を採択することといたします。

次は、理科です。理科の目標は、「自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しを持って観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探求するために必要な資質・能力を育成することを目指す。」です。それでは、皆様から順次御意見をいただきます。

斉藤委員 どのような手順で、指導を展開していくかを明確に示しているのは東京書籍と大日本図書です。理科の学習について、なるべく興味関心を持たせるために、身近なものにフォーカスをしている東京書籍が望ましいと思います。

小川委員 啓林館と教育出版を推薦します。

啓林館については、各単元の構成が、はじめに学習課題を掲げて仮説を立て、実験を行い、結果と考察をまとめるという一連の流れになっており、学習の進め方がわかりやすいです。大事なワードは太文字で強調されており、必ず覚えてほしい箇所がわかりやすいです。また、巻末の探求シートは、グループで議論しながら実験した内容を、個人の学びとして再整理できるようになっています。難しい学習内容は、生徒同士の対話や、先生との対話の中で理解できるように挿絵の工夫がされています。各章の終わりに学習のまとめと力試しというページがあり、学習の振り返りがしっかりとできます。また科学コラムでは部活、料理、仕事、防災、減災、深めるというテーマで身近な生活と科学のつながりを学習できるようになっています。

教育出版については、各単元の構成が、はじめに疑問を見つけ、課題を決めて、仮説計画を立てて、観察や実験をし、得られた結果を考察して結論を出すという一連の流れになっており、学習の進め方がわかりやすいです。難しい学習内容は生徒同士の対話や、先生との対話の中で理解できるように工夫されています。身近な写真が多数入っていて、生活と科学を結びつけて学習しやすいです。

森委員 見通しを持って実験や観察を中心に授業を行うため、できるだけ写真を掲載する等、見やすい教科書が良いと思いました。また、実験が伴うため、安全な作業が進められるかに注目しました。東京書籍を推薦します。「(問題発見) レッツスタート」では、学びやすいように、身近なものを取り入れているところに注目しました。また実験も段取りよく、結果考察に進むことができるようになっており、とても探求しやすい仕組みになっていると思いました。

もう1社は大日本図書を推薦します。単元ごとのまとめの読解問題がとても見やすくわかりやすいと思いました。また、イラストのつぶやきや吹き出しが、自分の気

づきや考えのヒントになるところも良かったです。また、狛江は近くに多摩川が流れており、生物の世界や身近な生き物の観察、自然環境の調査内容がとても扱いやすいと思いました。

熊谷委員　　まず教育出版を推薦します。教育出版は課題を見つけ、見方や考え方を働かせて、課題解決学習を行う構成になっています。課題を見つける部分は内容がやや難しく、生徒と先生を含めてうまく取り扱えるかどうかという点、疑問がありますが、理科としては良い取扱いだと思います。また、東京書籍と大日本図書の2社も課題解決学習の処理をセオリー通りに扱っていて、構成が似ていて良いと思います。教育出版、東京書籍と大日本図書の3社を推薦します。

教育長　　理科は、義務教育段階において、課題解決型学習の真骨頂である教科だと思います。その中で、2社を推薦します。まず日常との関連、有機物と河川の関係、大気汚染、洪水、脱炭素社会に向けた持続可能な社会までつなげて取り上げているところから、東京書籍を推薦します。もう1社は啓林館を推薦します。大地の成り立ちが大変興味深いと思いました。それでは、最終的に最も適切と判断される1社を選んでいただきます。

斉藤委員　　東京書籍を推薦します。

小川委員　　教育出版を推薦します。

森委員　　東京書籍を推薦します。

熊谷委員　　教育出版を推薦します。

教育長　　私は東京書籍を推薦します。ここでお諮りいたします。まずは、東京書籍から伺います。ステップを踏んで、課題解決型の学習というものを取り扱っている点で、東京書籍を採択することについて、賛成の方の挙手を求めます。

〈賛成者：挙手〉

教育長　　挙手全員と認めます。よって、東京書籍を採択することといたします。

次は音楽（一般）です。音楽の目標は、「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。」です。それでは、皆様から順次御意見をいただきます。

小川委員　　教育芸術社を推薦します。音楽と仕事、音楽とSDGsを結びつけて紹介する学習单元では、将来の職業とのつながりを意識して学習でき、未来思考の内容になっています。また、音楽の歴史を学習する单元では、様々なジャンルの音楽を相関図で示すことで、自分の好きなジャンルの音楽をきっかけに音楽への興味関心を広げやすくなっています。また、著作権について考える学習内容もあり、現実の社会問題についても学ぶことができ良いと思います。

森委員 教育芸術社を推薦します。夕焼けや波の写真等が美しく使われていて、情景を思い浮かべながら歌う工夫がとても良かったと思います。また、日本で人気のあるミュージカルの演目や、歌舞伎の音楽や舞踊、演技の特徴が、写真とともに細かく説明されているため、授業で使いやすいと思いました。また楽譜が大きくて見やすいです。1年生で、突然音符を扱うのではなく、リズムゲームから始まり、ステップアップしながらメロディーを扱うところもとても良いと思います。

熊谷委員 教育芸術社を推薦します。学びを示す手立てが、丁寧に單元ごとに構成されているため、見通しを持って学習できると思います。また、詞や背景を写真等で具体的に示しているため、楽曲の雰囲気が理解できる点が大事だと思います。

斉藤委員 教育芸術社を推薦します。知識の取扱い箇所が非常に多く、表現の箇所についても、教育出版に比べて多いです。また、外国の音楽の曲数の取扱いも多く、コンピューターや教育機器の活用場面も多いため、教育芸術社が望ましいと考えます。

教育長 狛江市は、「音楽の街一狛江」という特色があります。狛江で育った子どもたちは、中学校段階でも、かなり高いレベルの技能を持っています。歌についても、大変熱心に取り組んでいる自治体です。その中で、課題と学びの手立てが示され、見通しを持って学習に取り組むことができる構成になっている教育芸術社を推薦します。対話形式で示されていますので、歌詞と情景をつなげながら、ルールを守ることも大切にしたい音楽活動につなげていけると考えました。

それでは、仕事やSDGs、日常、ジャンルの相関、学びの手立て等から、教育芸術社を採択することについて賛成の方の挙手を求めます。

〈賛成者：挙手〉

教育長 挙手全員と認めます。よって、教育芸術社を採択することといたします。
次は音楽（器楽）です。皆様から順次御意見をいただきます。

森委員 教育芸術社を推薦します。学習する楽器のはじめに演奏を聞こうという説明があり、鑑賞教材が紹介されているため、具体的なイメージが浮かび、学習に入りやすいと思います。二次元コードの活用で、調べ学習や伴奏と合わせた演奏ができ、自主的に学習を深めることができる点もポイントだと思います。「音楽の街一狛江」ですので、いろいろな演奏会等で取り上げられている楽器についても紹介されており、活用できる内容がとても多く取り扱われていると思いました。

熊谷委員 教育芸術社を推薦します。音楽鑑賞教室や、「音楽の街一狛江」事業が取り上げられている点が大事な要素だと思います。また和楽器の扱いも他社に比べて丁寧だと思います。

斉藤委員 教育芸術社を推薦します。音楽（一般）が教育芸術社であるという関連性もありますが、器楽の取り扱い方について、教育芸術社はリコーダー以外の管楽器をほとんど

取り扱っていない点、音楽の先生が指導計画を柔軟に作成できるのではないかと思います。

小川委員 狛江の子どもたちは、様々な音楽技能を持つ先生方の指導により、既に小学生の段階で、和太鼓や能、狂言、琴などについても深く学習しています。中学校でもさらに音楽の学習を深く学び進めることができる教育芸術社の教科書がふさわしいと感じました。

教育長 「音楽の街一狛江」事業の演奏会で取り上げられている楽器について取り扱われているのは、教育芸術社です。そして、狛江市の小学校の図工の時間に児童がカホンを製作しています。カホンを楽器で紹介しているのは、教育芸術社です。そのため、教育芸術社を推薦します。

それでは、音楽が盛んなまち狛江として、和楽器や様々な楽器が取り扱われていること、発展的な内容が明示されていることから、教育芸術社を採択することについて賛成の方の挙手を求めます。

〈賛成者：挙手〉

教育長 挙手全員と認めます。よって、教育芸術社を採択することといたします。

次は美術です。「美術の目標は、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成すること」を目指しています。それでは皆様から御意見をいただきます。

熊谷委員 開隆堂を推薦します。開隆堂の教科書は学習の狙いが明確であり、表現と鑑賞がバランスよく配列されています。また、資料的な内容が非常に多いと思います。

斉藤委員 3社の教科書の取り上げる分野の割合の意図について、教科書を読むだけではわからない面がありますが、全項目にバランスよく分量配置されているのは開隆堂だと思います。光村図書と日本文教出版は表現や、作品の掲載の仕方について、必ずしもバランスがいいとは見えません。出版社の考え方があるのですが、美術の専門性がそれほど高くない子どもたちや私にとっては、開隆堂の教科書が非常に見やすいと感じました。

小川委員 開隆堂と光村図書を推薦いたします。

開隆堂については、まず表紙がカラフルでインパクトがあるだけでなく、凸凹も表現することで美術の着想を刺激する魅力的なデザインになっています。学習の目標が各単元の冒頭に記載されており、何を考えて作品を作ればよいのかがわかりやすいです。また、デザイナーの着想のヒントを紹介するページでは、表現に悩んだ際の手掛かりになって良いと感じました。そして、工業デザインやSDGsとの関係などを紹介する学習単位では、将来の職業とのつながりも学習でき、未来思考の内容になっています。

光村図書については、和紙でつくられた原寸大の浮世絵のページがあり、浮世絵の世界に引き込まれる感覚が生まれ、面白く魅力的に感じました。日本の芸術・美術を学習する単位では、世界の芸術・美術との違いを比較しながら楽しく学習できます。

また、学習内容に基づいて製作された作品とその着想のヒントが多数紹介されており、美術が苦手な生徒への配慮がなされていて良いと思いました。

森委員 美術では実際に作品を一見したときの感動がとても大きいと思います。開隆堂はまず表紙について、タイルの質感や、油絵の凹凸が五感で感じられるようなつくりがとても良かったと思います。また、扉のページに、子どもたちに人気の漫画「ジョジョの奇妙な冒険」という作品が掲載されています。そこで、作者の荒木飛呂彦さんが美術館で見た屏風の写真を、アポロンとダフネのポーズの製作の参考にしたという話が紹介されています。一見漫画とつながりがないようなものから、美術作品としてインスピレーションを受けたという紹介はとてもインパクトがあり、内容がとても興味深いと感じました。それから、開隆堂は全体的に学習の目標が明確で、子どもたちに伝わりやすく、表現と鑑賞のバランスもよくできているため、推薦したいと思います。

教育長 芸術、特に美術の分野は、子どもたちが言葉だけではなく、奏でる音楽以外の表現をする場としては非常に大切な教科だと思います。そして、中学生のときならではの技能の高め方、自分の思いを形にしていくという醍醐味を味わってほしいと考えます。また、現在取り上げられているSTEAM教育の中のアートというのは、技能や技術だけではなく、それをデザイン化していくことが、より社会全体の課題にもなっています。その中で、表現と鑑賞から造形的な見方・考え方や、生活や社会の中での美術、愛好を育む心情といった工夫がされている開隆堂を推薦したいと思います。

それでは、他の出版社の推薦もありましたが、全ての教育委員が開隆堂を推薦しているため、表紙のインパクトや、生徒が引き込まれていくようなつくり、考えるヒントが入れられていること、全領域についてバランスよく掲載されていること、狙いが明確であること、といった理由から、開隆堂を採択することについて賛成の方の挙手を求めます。

<賛成者：挙手>

教育長 挙手全員と認めます。それでは、開隆堂を採択することといたします。それでは、ここで暫時休憩とします。

【暫時休憩】

教育長 再開いたします。

次は保健体育です。保健体育の目標は、「体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することを目指す。」です。それでは、皆様から順次御意見をいただきます。

斉藤委員 性の多様性やがん教育等をきちんと扱っている大修館を推薦します。武道に関する記述が、東京書籍や学研においてやや少なく見られました。体育の授業を通して、心肺蘇生法を含めたスキルをきちんと扱っている点で、大修館が望ましいと考えました。

小川委員 大修館と東京書籍を推薦いたします。

大修館については、各項目の見出しが大きく、学習内容がわかりやすいです。各章のまとめは2ページもあり、思考力・判断力・表現力がつけられる問題形式で、学習の振り返りがしっかりできます。

東京書籍については、各章のまとめのページの二次元コードを利用すれば、簡単な箇条書ではありますが、きちんと学習の振り返りができるようになっています。

森委員 東京書籍を推薦します。グループワークでの交流活動をさせるような仕掛けや、動画や資料、ワークシート、Webリンク等につながって発展的に学習できる内容になっています。また、中高生が関心を持つようになる喫煙や飲酒、薬物乱用について結構なページ数を割いて、丁寧に扱っていて、全体的に使いやすくわかりやすいと思いました。また、自然災害についても詳しく掲載されており、ハザードマップや防災タイムライン等、自然災害に備えたページも充実しています。また、災害時に自分がどのように対応しなければならないかについて取り上げているため、東京書籍が使いやすいのではないかと考えました。

熊谷委員 大修館と東京書籍を推薦します。大修館は情報量が非常に豊富で、基礎的、基本的な内容が充実されていると思います。狛江市は多摩川に隣接していて、近年も大水がありましたので、自然災害に対する対応が非常に大切だと思います。東京書籍はこれに関連した内容をきちんと取り上げていました。

教育長 狛江市の近くに国立成育医療センターがあり、難病を持ち治療しながら学業に励んでいる子どもたちがおります。そのような意味でも、病気を正しく理解するのにふさわしい教材はどれかという視点が1つあります。そして自然災害や事故の取扱いがあり、将来どのような生き方がふさわしいのかを選択できる力を身につけるための教材としてふさわしいものはどれかという視点で選びました。大修館と東京書籍を推薦します。大修館は情報が他社よりも多いという特徴があります。その中で、疾病のことに対して、広く取り上げられている点に注目しました。東京書籍は、自然災害等、様々なことを広く、バランスよく掲載してある点から推薦しました。

それでは、最終的に最も適切と判断される1社を選んでいただきます。

斉藤委員 大修館を推薦します。

小川委員 情報量が多く、深く学習できる大修館を推薦します。

森委員 東京書籍を推薦します。

熊谷委員 大修館を推薦します。

教育長 それでは、子どもたちが正しい知識を身につけ、発展的に捉えられる教科書として、大修館を採択することについて賛成の方の挙手を求めます。

〈賛成者：挙手〉

教育長 挙手全員と認めます。よって、大修館書店の教科書を採択することといたします。

次は、技術家庭（技術分野）です。技術分野の目標は、「技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってより良い生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を育成することを目指す。」です。それでは皆様から順次御意見をいただきます。

小川委員 開隆堂と東京書籍を推薦します。技術分野はプログラミングをはじめ、学習内容が次々に最新の情報に更新されます。技術分野は将来の職業選択の一助となる重要な学習分野と実感しています。

開隆堂については、身の回りにある情報技術の事例として、スマートフォンやロボット掃除機等の身近な家電製品を取り上げていて良いと感じました。また、オープンソース等の新しいワードにも触れながら、情報セキュリティー、情報モラル、著作権や知的財産の保護、社会問題解決に向けたアプリの開発等、幅広く紹介されていて良いと感じました。身の回りにある生物育成の技術では、農作物の栽培や動物の飼育、水産生物の栽培、森林の育成等に様々なテクノロジーが導入されていることが幅広く紹介されていて良いと思いました。また、オーダー家具製作会社の社長や、造船工場の技術者の方へのインタビューが紹介されていて、将来の職業をイメージできて良いと感じました。

東京書籍については、情報技術の単元で扱う通信ネットワークやセキュリティーの仕組み等の難しい学習内容を、イラストを用いて理解しやすい工夫がされています。双方向性のコンテンツや、計測制御システムのプログラミングの問題解決事例も多数紹介されていて、テクノロジーの発展における問題解決の仕組みもしっかり学習できます。また、データサイエンス、メタバース、ボディシェアリング等の最新の技術が紹介されており、最新の AI 技術と私たちの生活を結び付けて学習できます。

森委員 東京書籍と教育図書を推薦します。東京書籍について、冒頭に技術の学習の流れとして、発表に至るまでのコツが示されていて、流れが大変わかりやすいと思いました。また、2章の生物育成の技術による問題解決では、パンジーの花で花壇を華やかにすることが紹介されていますが、狛江第三中学校と和泉小学校は、駅前では花の植栽活動をしています。この教科書に沿ったような活動しているところも良いと思いました。もう1点、GAP が紹介されていて、農業の生産工程管理の資料が載っています。狛江市にも狛江ブランド農産物 GAP 研究会があり、安心安全で環境保全を考えて作られている地元野菜があります。この狛江のブランド農産物 GAP 野菜は、小学校の給食の食材でも使われていて、子どもたちが聞いたことのある言葉だと思います。生徒たちが、より狛江の農業に関して興味を広げ、学ぶことができると思います。

教育図書について、スキルアシストというハンドブックがあり、基礎的な技能等がまとめられているので、発展的な内容が実践に生かせると思いました。授業だけではなく家庭でも役立つ資料だと思います。また学習が、見つける、学ぶ、振り返るというステップで構成されているため、学習の流れを確認しやすく、デジタルコンテンツやスキルアシストを活用し、個別最適な学びが展開できると思います。

熊谷委員 東京書籍を推薦します。技術家庭では、生徒が実際に道具を使うため、事故につながるための資料性が大切だと思います。東京書籍には、適切な量の資料が含まれていると思いました。また、問題解決のページがあり、それを発展させて授業に持っていくようになっています。また、電化製品の火災発生事故について、乾電池1つを

とってやけどする等のケースもあります。その辺りの安全な利用方法を細かく取り入れられていると感じました。

齊藤委員 1週間に29コマの授業の中で、技術に配当される時間は、1週間あたり1時間若しくは、2週で1時間です。非常に限られた時間数で、教科書に載っている資料やその他の記述が多すぎると、結果的に扱いきれません。そのため、量が適切であるか、精選されているかという視点は外せません。物理的な時間が限られているため、どれだけ効率的に授業を展開するかは非常に大切な視点ではないかと思います。その中で、特に将来的な勤労観や職業観に関する箇所が比較的多く書かれている東京書籍、またICTを使って課題解決に資する教育図書、この2社がより良いと感じました。

教育長 技術は、技術的、スキルのなものという一方で、世の中の流れに対して、どのように受けとめて、生活の中に生かしていくかを、自覚を持って捉えていく教科でもあると思います。その中で、知的財産の活用や、安全設計の倫理観の育成も入っていくと思います。キャリア教育の視点も踏まえてみたところ、東京書籍が良いと思いました。持続可能な社会に関する内容や、社会や生活を支える技術の取り上げ方というところで、東京書籍を推薦します。そしてもう1つは、開隆堂です。開隆堂は実践的体験的な活動に関する内容の取上げが、しっかりされているところが良いと思いました。また、社会の発展と技術や、技術による問題解決が取り上げられている特徴がありましたので、この2社を推薦したいと思います。

それでは1社に絞っていただきます。

小川委員 学習時間数が限られた中で学ぶことを考慮し、東京書籍を推薦します。

森委員 東京書籍を推薦します。

熊谷委員 東京書籍を推薦します。

齊藤委員 東京書籍を推薦します。

教育長 東京書籍を推薦します。それでは、安全性、技術の理解、モラルも含めたテクノロジーの導入、生物育成の技術からの問題解決という点で、東京書籍を採択することについて賛成の方の挙手を求めます。

<賛成者：挙手>

教育長 挙手全員と認めます。よって、東京書籍を採択することにいたします。次は技術家庭（家庭分野）です。家庭分野の採択につきましては、森委員が小学校家庭科の教科書にコメンテーターとして掲載されております。中学校技術家庭科（家庭分野）の関与はありませんが、同社から教科書の発行があり、中学校につきましても小学校同様に、技術家庭（家庭分野）の採択に当たっては、森委員に退出していただくことで御異議ございませんでしょうか。

<異議なしの声>

教育長 それでは、暫時休憩といたします。

【暫時休憩】

教育長 再開いたします。

家庭分野の目標は、「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住等に関する実践的・体験的な活動を通して、より良い生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを目指す。」です。皆様から順次御意見をいただきます。

熊谷委員 東京書籍と開隆堂を推薦します。調理実習の例が東京書籍は非常に多いと思いました。開隆堂も多いと思います。東京書籍は、衣食住、消費、家族の順で構成されており、開隆堂は、家族、衣食住の順番で構成されています。その辺りを見て、両社とも良いと思います。

斉藤委員 全体的なバランスを考えた場合、東京書籍が望ましいと思います。ただ、消費生活と環境を比較的割合的に高く取り扱っている教育出版も捨て難いと考えます。

小川委員 開隆堂を推薦します。住生活を学習する単元で、自然災害と安全対策、地震対策等の防災に関する平時からの備え、災害発生時への対応、緊急避難場所、災害後の生活の立て直し等、いつ起きても不思議ではない災害に備えた住まいの対応を、10ページにわたり学習できます。また、持続可能な社会に向けての単元で、消費生活とエネルギー、地球環境を守る私たちの暮らし方として何ができるかを深く学習できる点も良いです。家族、家庭生活を学習する単元では、多様な家族や様々な暮らし方が紹介されていて良いと思いました。ヤングケアラーや、ウェルビーイング、ジェンダーレス、エンカル消費、金銭管理、持続可能な生活等の新しい概念について、いち早く学習内容に取り上げていて良いと思いました。

教育長 家庭科も、実践的体験的な活動が大切な教科です。生活に密着しており、多様な文化があるからこそ多様な生き方ができること、より良い生活を実現するための工夫について思いをめぐらしたり、現実の課題を受けとめたりすることが必要な教科でもあると思っております。そのような視点から、東京書籍と開隆堂を推薦します。東京書籍は家族家庭の機能を学んだ上で、衣食住や、消費生活、環境から、生活の自立に必要な基礎的な理解と技能を身につける構成になっております。開隆堂は内容分量も多く取り上げておりますが、多様な性に関する内容が詳しく取り上げられているため、推薦しました。

それでは、最終的に最も適切と判断される1社を選んでいただきます。

熊谷委員 東京書籍を推薦します。

斉藤委員 東京書籍を推薦します。

小川委員 開隆堂書を推薦します。

教育長 東京書籍を推薦いたします。
それでは、内容のバランス、分量、家族から衣食住という実践的な内容の取上げから、東京書籍を採択することについて、賛成の方の挙手を求めます。

〈賛成者：挙手〉

教育長 挙手全員と認めます。よって、東京書籍を採択することといたします。
それでは、暫時休憩といたします。

【暫時休憩】

教育長 再開いたします。
次は英語です。英語の目標は、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考え等を理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。」です。それでは皆様から順次御意見をいただきます。

斉藤委員 中学校3年間から高校、大学まで進学すると、英語は約10年間授業で学んでいます。しかし、一昔前の日本人は、英語がどれだけ使えるようになったかについて、疑問がある傾向にありました。それを受け、4技能の中でも、単語数は絞っていても、話すこと、コミュニケーションをとることについて大分改善がされてきたと思います。そうした視点で、まず、取扱いの単語数は少ないものの、4技能の中で、話すことに若干の力点を置いている東京書籍を推薦します。また、バランスよく4技能について、きちんと教えるべきことは教えるという三省堂のスタンスも大変評価できるかと思えます。

小川委員 光村図書と三省堂を推薦します。来年度からの中学生は、小学3年生から英語の授業を始めており、レベルの高い英語学習を対話型で進めています。そのため光村図書、三省堂のレベルの高い教科書でも、狛江の子どもたちは対応可能だと思います。

光村図書は、読み物のボリュームが多く、学習内容の状況設定を理解しやすくするために、友人同士の会話やイラスト、漫画等が多く入っています。また、「Let's Read」では比較的長文の読み物に挑戦することができ、「Let's Read more」では、更に長文の読み物に挑戦できる点が、学びを深めることができると感じました。また巻末付録の「学び方ガイド」も面白く興味深いです。単語やスピーキング、ライティングの学び方のほか、目的に応じた学び方、将来に向けた学び方等、英語の多様な学び方が紹介されています。二次元コードを用いて、家庭学習で学びを広げられる点も良いと感じました。

三省堂については、会話形式の漫画が多く、学習内容の状況設定をイメージしやすいです。1年生の冊子では苦手意識等を持たないよう、楽しいイラストや会話中心の内容になっています。各レッスンは、聞くことから始まり、読み、書き、最後に「Goal Activity」として、会話でのやりとりや発表する形式になっており、コミュニケーションやプレゼンテーション等、実践的に4技能全てを学習できる点が良いと思います。また、資料として入っている、英語と向き合うコツ、単語の覚え方、スピーキングで

相手に伝わるポイント等も良いと思いました。英語の歌も紹介されており、学びが広がると感じました。二次元コードの活用もあり、発音や単語、基本な構文について、生徒が自分のペースで家庭学習でき、個に応じた学びができる点も良いと思います。

森委員 三省堂を推薦します。「Goal Activity」でやりとりやプレゼンテーションの形式、実践的なコミュニケーションができるよう、工夫がされていました。巻末の二次元コードを活用しようというところでは、発音や単語、基本文が視聴でき、自分のペースで学びを深め、力をつけることができます。また、小中を連携した配列及び内容で構成されているので、写真やイラストも多く、登場人物も国際性に富んでいるので興味深い内容になっていると思います。

もう1社が光村図書です。4人の中学生が、様々な出来事を経験しながら成長していくストーリーが柱になっているので、生徒にとって非常に親しみやすい内容で学ぶことができると感じました。友人同士のやりとりが多く、講話的な表現を学ぶことができます。イラストの色味が少し抑えられているところも、落ち着いたイメージで、教科書として学びやすいと感じました。その場で使える「Let's Talk」も細かい内容が載っており、相手や自分のことについてやりとりし、スピーチに取り組みやすい工夫がされているところも良いと思います。

熊谷委員 まず、三省堂を推薦したいと思います。中学校で英語の授業を見学したとき、狛江市の生徒のレベルが相当高いと感じました。三省堂は少しレベルの高い教科書ですが、プレゼンテーションの中身や、コミュニケーションの取扱いが適切かと思っています。また、スピーキングも違和感のないイントネーションとなっています。狛江市の生徒は、話したり聞いたりする力はレベルが高いと思いますが、作文力は少し弱いと感じます。その点についても、三省堂の中身はバランスよく考慮されていると感じました。

光村図書について、米国英語に偏っている点が個人的に少し気になりますが、内容は良いと思います。三省堂と光村図書を推薦したいと思います。

教育長 5つの領域、聞くこと、読むこと、話すこと（やりとり）、話すこと（発表）、書くこと、目標設定や、それらの領域における活動の取扱いから、本市は、児童・生徒の英語力が高い傾向にあります。加えて、中学校では、文法の学習が始まります。表現力と、言語を獲得するという観点から、私は2社を推薦します。1社目は、三省堂です。聞くことから展開し、実践的なコミュニケーションを図る活動ができ、ゴールに発表があるという流れになっていることから三省堂を推薦します。2社目は、光村図書です。4分野5領域の中で、友人との対話的なやりとりが多く、また話の大筋をつかんで話の細部に読み取りや練習、言語活動が展開されていることから推薦します。

それでは、最終的に最も適切と判断される1社を選んでいただきます。

斉藤委員 狛江の子どもたちの英語力のさらなる向上を期待して、三省堂を推薦します。

小川委員 4技能をバランスよく学習できる三省堂を推薦します。

森委員 三省堂を推薦します。

熊谷委員 三省堂を推薦します。バランスよく構成されていると思います。

教育長 私も三省堂を推薦します。

それでは、聞くことから発表までの一連の流れや、レベルが高いものの会話形式も重点にされていること、状況の設定が見やすいこと、バランスも含めて基礎力を更に向上させることから、三省堂を採択することについて、賛成の方の挙手を求めます。

〈賛成者：挙手〉

教育長 挙手全員と認めます。よって、三省堂の教科書を採択することといたします。

次は道徳です。道徳の目標は、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的、多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」です。それでは皆様から順次御意見をいただきます。

森委員 日本文教出版と日本教科書を推薦します。話題に上るいじめの中でも特に気づかないのは、ネットによるいじめです。その点、日本文教出版では、いじめの起きやすいときに、いじめを取り扱うユニットが配置されています。情報モラルも丁寧に扱っており、SNSでのいじめや、その害について取り上げている部分が良いと思いました。また、著名人ではさかなクンが載っていますが、具体的な人物に言及して、事実になっているところが考えやすいと思いました。1年生の教科書の「より良い社会を考える」、「決まりを守る」というところでは、「ふれあい直売所」という文章があり、このような景色は狛江市内でも見られる風景であるため、親しみやすいと思いました。

もう1つが、日本教科書です。全体的に非常にシンプルで、テーマの選択はバランスが良いと思いました。学年が上がるにつれて教科書のタイトルが変わり、発育段階に合わせて教科書の内容もステップアップしていく考え方が良いと思いました。また、読み物がとても豊富であるため、子どもたちが興味を持って学習でき、考えを深められるようになってきていると思います。教科の最後に、「考えよう」、「深めよう」というコーナーがあり、生徒たちが自分の考えや問題意識を持ちながら深められるようになっていくところも良いと思いました。また、リョウとマキという主人公が3年間、シリーズで出てくるほか、巻末のウェルビーイングカードによって、考え方の手掛かりをつかんだり視点を広げたりすることができる点は、興味や関心を広げやすいと思いました。

熊谷委員 日本教科書と日本文教出版を推します。日本教科書はリョウとマキという主人公が3年間登場していて、生徒が自分や友達、兄弟に置き換えることができる点わかりやすいと思いました。また、非常にシンプルにまとめてあり、取り扱いやすいと思います。ウェルビーイングカードという新しい手法を取り入れている点も良いと思います。ウェルビーイングという言葉は何十年も前に心理学でよく出てきますが、これを道徳の中に取り入れることによって、客観的に自分の立場を考えることができ、非常に良いと思います。一方で、カード形式になっていますが、Webで取り出せる等、工夫があるとより良いかと思います。

日本文教出版は、生徒の視野を広げるために、他教科との関連を重視している点が捨て難いと思います。「考えてみよう」という構成の最初に、「自分にプラス1」という、本人と他者という位置付けもあり、良い構成の仕方かと思います。

齊藤委員 道徳教育は人として普遍的に大事にしなければいけない、決して崩してはいけない、そうした人権感覚や生命尊重というものについて、きちんと記述がなされるのが望ましいと思います。子どもたちをつかむために、はやりの題材、話題になっているものを最初に取り入れるのは良いですが、道徳はきちんと子どもに考えさせることが必要な教科だと思います。いじめに対して、これだけ法制化されているものの、一向に根絶されていません。そのため道徳の教科書は、いじめにしっかりと向き合い、重点を置くことが必須だと考えます。したがって、いじめについての取扱い方や見方、見やすさを勘案し、教育出版と日本文教出版を推薦します。

小川委員 SNS とのつき合い方やスマホとの距離のとり方について着目して選びました。3社を推薦します。1つ目はあかつき教育図書、2つ目は教育出版、3つ目は日本文教出版です。

あかつき教育図書については、熊本地震の際にライオンが逃げたというデマが SNS 上で拡散された身近な実話が紹介されており、説得力があります。文字の書体がやさしい書体で、中学生の心にやさしく入り込むと感じました。また3年生の「夢へのステップ」では、大谷翔平選手が目標を達成するために使っているマンダラートというツールが掲載されています。進路を考え、夢や将来と向き合う際のきっかけとして、具体的で参考になると感じました。

教育出版については、SNS の使い方やその危険性について具体的な事例が掲載されており、説得力があります。マナーやルールを学ぶために、自分の考えをまとめて、他者と話し合い、振り返り、自分の考えに修正を加えるという一連の対話型の学習を取り入れていて良いと思いました。また、将棋の若手プロ棋士である藤井聡太さんの学び方を題材として生徒同士が意見を交わす「学びの道しるべ」も良いと思いました。

日本文教出版については、いじめと向き合う学習内容が多く取り扱われていて、SNS とのつき合い方についても、より具体的にイメージできる学習内容になっていて良いと思いました。

教育長 本市の教育目標である、生命尊重と人権尊重、社会貢献や地域貢献の意識の醸成は、第1項目として目標に掲げています。自分自身を見つめる、他者を意識する、そして社会全体を俯瞰的に見るところから、将来の希望、命を大切にするという点で、題材、流れ、最後の課題が生徒の思考を邪魔していないか、あるいは誘導、誘発していないかという観点で見ました。2社を推薦します。1社は日本文教出版です。こちらは自分プラス1、自分と他者というところをシンプルに捉えています。もう1社はあかつき教育図書です。生命尊重、生きる喜びを取り扱い、多様な見方で、従来の題材と現代的な題材のバランスが良いと思いました。

それでは、最終的に最も適切と判断される1社を選んでいただきます。

森委員 日本文教出版を推薦します。

熊谷委員 新しい手法として心理的分析法を取り入れ、客観性を持たせるやり方も良いと思いますので、日本教科書を推薦します。

斉藤委員 日本文教出版を推薦します。

小川委員 あかつき図書を推薦します。

教育長 日本文教出版を推薦します。それでは、子どもたちに身につける心の育みというところを焦点に、様々な出版社の捉え方を御検討いただきました。そして、今理由を述べていただきました結果、日本文教出版を採択することについて、賛成の方の挙手を求めます。

〈賛成者：挙手〉

教育長 挙手全員と認めます。よって、日本文教出版を採択することといたします。以上で中学校の教科用図書の採択を終了いたします。

次に付議案件（２）議案第 44 号「令和 7 年度狛江市立学校使用特別支援学級用図書の採択について」、審議いたします。採択に当たり、指導室長から説明いたします。

指導室長 付議案件（２）議案第 44 号「令和 7 年度狛江市立学校使用特別支援学級用図書の採択について」説明いたします。

狛江市立学校特別支援学級用図書は、狛江市立小学校及び中学校教科書採択に関する実施要綱第 9 条の規定に基づき、特別支援学級設置校の校長から、議案別紙資料のとおり、教育委員会に報告されております。この「狛江市立学校特別支援学級調査資料」に掲載されている図書等は、いずれも東京都教育委員会から示された一般図書一覧等を参考に、各特別支援学級設置学校が十分に調査研究し、児童・生徒の教科の主たる教材としての内容を備えた教育上適切なものと判断されるものです。

なお、狛江第一小学校に設置している知的特別支援学級、狛江第三小学校及び狛江第三中学校に設置している自閉症・情緒障がい特別支援学級は通常学級と同一の検定教科書を使用するため資料はありません。

教育長 それでは、これより、狛江市立学校特別支援学級用図書の教科書採択の協議を行います。議案別紙資料について、皆様から御意見をいただきます。

熊谷委員 指導室長にお伺いします。緑野小学校と狛江第一中学校について、特別の教科書を使うということですが、その他の学校、特に狛江第一小学校にも、様々な児童がいると思います。どのような教科書を使うのか、また、児童によって随分差があるのではないかと思います。その辺の学校側の理由付けを説明いただければと思います。

指導室長 狛江第一小学校については、交流と協働学習という教育活動を行っており、同一の教科書を使って合同授業を行い、学習を進めています。そのため、検定教科書を使うという形で報告を受けております。

熊谷委員 支障がないのであればよろしいかと思えます。これは質問でした。採択とは関係ありません。

教育長 御異議ございませんでしょうか。

<異議なしの声>

教育長 それでは議案別紙資料につきまして特に異論等がないようですので、令和7年度狛江市立学校特別支援学級用図書は、議案別紙資料のとおり採択することについて、賛成の方の挙手を求めます。

<賛成者：挙手>

教育長 挙手全員と認めます。よって、令和7年度狛江市立学校特別支援学級用図書は、議案別紙資料のとおり採択することといたします。他に質問等がなければ、以上をもちまして、令和6年狛江市教育委員会第8回定例会を閉会いたします。